

JOMF 派遣医師便り (2017. 4)

◆シンガポール◆

ギャンブル依存症

シンガポール日本人会クリニック

日暮 浩実

シンガポールには様々な依存症の治療施設として National Addiction Management Service (NAMS) という機関がある。これはシンガポール最大の精神科病院である INH (Institute of Mental Health) (2,000 床、1928 年創設) の中に 2008 年に設置されたものである。1 年前の統計であるが、ここを訪れるギャンブル依存症の患者さんの数は、シンガポールにカジノが設立された 2010 年に比べ、2 倍に増えたという。他の依存症（アルコール、麻薬など）全体でも 37% の増加が見られていて、これも問題だが、中でもギャンブル依存症患者の増加は際立っている。ただ、この数字はこの施設に診断治療を求めて訪れた患者さんの数なので、そのままこれが国全体のギャンブル依存症患者数の増加とイコールではないが、増加傾向にあることは疑いないであろう。

そして、英国のコンサルティング会社 H2 gambling capital によると、いまやシンガポールはオーストラリアについて世界 2 番目のギャンブル大国といっても良いそうだ。これは、成人が 1 年間にギャンブルで損失した金額で比べたという統計によるものだが、世界で一番多いのはオーストラリアで、2 位がシンガポールなのだそうである。シンガポールに関しては、2010 年に国内に 2 つの大きなカジノが設立されたことと無関係ではないだろう。

NAMS には入院施設があり、中毒からの離脱やリハビリテーションを行っている。また、国内の 2 箇所にサテライトとして外来のクリニックも開いている。

NAMS やそのサテライトでは Gambling Addiction Management Through Education (GAME) に基づいて、患者さんを精神科医、カウンセラーやナースなどがチームとして個人の診断、治療に当たっている。そこでは、認知行動療法に基づいて、病気そのものの理解、金銭の扱い方、再発防止の戦略などが教育される。また、グループセラピー、ファミリーセラピーなども行っている。また、地域共同体への啓発講演や診断治療に関わる人たちの訓練、教育を行っている。

シンガポール国籍で年に 1 回以上カジノに行ったという人は国民の 7.7% に過ぎないとのことであるが、ギャンブル依存症患者を持つ家族は、ほぼ例外なく、患者を通してギャンブル依存による家庭生活への影響を受けており、精神的、経済的負担も大きい。そのため、こうした家族は GAME の中の家族向け教育プログラムに参加することが強く進められている。参加費用は無料で、現在は週に 1 回、2 時間、木曜日の夜 7 時から 9 時に設定されており、就業している家族でも参加しやすい時間帯が設定されている。国としての真摯な取り組み

の姿勢が感じられる。